

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の 別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	株式会社 読売新聞東京本社

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		読売新聞府中別館							
事業所の所在地		東京都府中市南町四丁目40番地33							
事業の 業種	分類番号	G41	G_情報通信業		映像・音声・文字情報制作業				
	産業分類名	映像・音声・文字情報制作業							
業種等	事業所の種類	主たる用途	工場その他上記以外						
		建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)		前年度末	35,631.15	m ²	基準年度	35,631.15	m ²
		用途別内訳	事務所	前年度末	4,854.42	m ²	基準年度	4,854.42	m ²
			情報通信	前年度末	3,649.18	m ²	基準年度	3,649.18	m ²
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			商業	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			宿泊	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			文化	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			物流	前年度末	980.46	m ²	基準年度	980.46	m ²
			駐車場	前年度末		m ²	基準年度		m ²
工場その他上記以外	前年度末		26,147.09	m ²	基準年度	26,147.09	m ²		
事業の概要		読売新聞東京本社の印刷工場及び事務所として、当該事業所を所有・管理している。平成5年11月竣工。地下1階、地上6階で約150人が就業。地下1階は建屋設備、1～3階は新聞印刷工場（一部事務所）、4～5階はコンピュータセンター。地上6階はUPS室として使用し、工場及びコンピュータセンターへ電源を供給している。隣接する東京都府中市南町五丁目38番地12のB敷地を倉庫として使用。							
敷地面積						25,816.34	m ²		

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	株式会社 読売新聞東京本社 総務局総務部 環境対策課
	電 話 番 号 等	03-3242-1111 (代表)
公表の 担当部署	名 称	株式会社 読売新聞グループ本社 広報部
	電 話 番 号 等	03-3242-1111 (代表)

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス:	https://info.yomiuri.co.jp/social/environment/index
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所:	
		所在地:	
		閲覧可能時間	
	冊 子	冊子名:	
		入手方法:	
そ の 他	アドレス:		

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1993	年	12	月	3	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

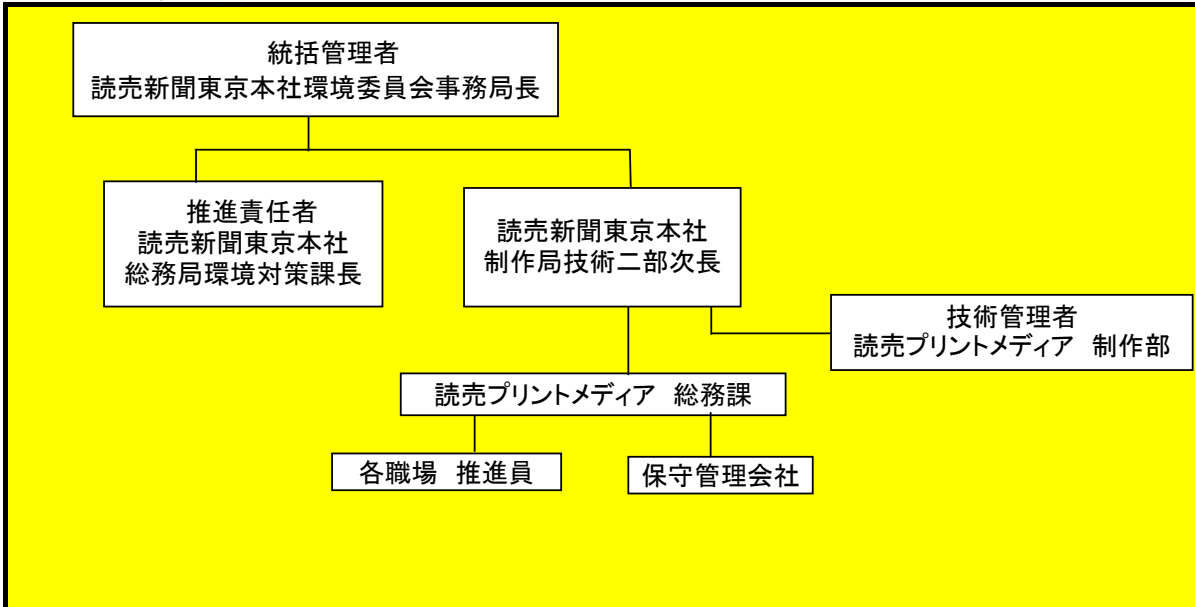
2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

当社では、日頃より環境配慮の積極的な取り組みを進めている。
当事業所については、以下の3点を重視して地球温暖化対策に取り組んでいる。

1. 適切な空調管理
2. 設備の更新・効率化
3. 事業所での省エネの取り組み

再エネの導入・利用に関する取組みについて：特になし

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	冷凍機と冷却塔等の更新を実施済。併せて冷水システムを2系統から1系統に変更するなど館内全体を統一管理することで、計画期間中の総量削減義務（25%）以上の削減を実現する。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	特定温室効果ガス以外のガスは、水道の使用及び下水道への排出に伴う二酸化炭素の排出のみとなっている。従って節水を行うことで、その他ガスを削減する。削減計画期間に平均2%以上削減を実現する。		
削減義務の概要	基準排出量	14,782 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	II
	排出上限量（削減義務期間合計）	55,435 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	25%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	建屋設備の更新は現在予定に無い為、運用の工夫により削減義務量以上の削減レベルを維持する。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	建屋設備の更新等は予定に無い為、運用により引き続き節水を行うことで、その他ガスの削減レベルを維持する。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス （エネルギー起源CO ₂ ）	8,421	7,956	7,537	7,243	6,798
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素（CO ₂ ）				
	メタン （CH ₄ ）				
	一酸化二窒素 （N ₂ O）				
	ハイドロフルオロカーボン （HFC）				
	パーフルオロカーボン （PFC）				
	六ふっ化いおう （SF ₆ ）				
	三ふっ化窒素 （NF ₃ ）				
	上水・下水	15	12	8	8
合計	8,436	7,968	7,545	7,251	6,806

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	236.3	223.3	211.5	203.3	190.8

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2002年度、2003年度、2004年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	Ⅱ
----------	---

(4) 削減義務期間

2015 年度から 2019 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	14,782	14,782	14,782	14,782	14,782	73,910
	削減義務率 (B)	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						62,825
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						11,085
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	8,421	7,956	7,537	7,243	6,798	37,955
	排出削減量 (F = A - E)	6,361	6,826	7,245	7,539	7,984	35,955

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input checked="" type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	2019年度の特定温室効果ガスの排出量（6,798t）が前年度（7,243t）に比べ減った要因としては、①館内の人員配置を見直して4階をフリースペースにしたことで通年で省エネが実現できた②夏期の天候不順で冷房負荷が抑えられ省エネになった③新聞の印刷部数が減少したため輪転機の動力電力使用量が抑制されたことが挙げられる。また、新型コロナウイルス感染拡大でテレワークが拡大し、出勤者が少なくなったことも電力使用量減につながった。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率冷凍機の導入（空冷チラー）	実施済み	
2	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率ターボ冷凍機の導入	実施済み	
3	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	直焚吸収式冷水機の更新	実施済み	
4	329900	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	温水ボイラーの導入	実施済み	
5	150200	15_照明設備の運用管理	調光式照明の採用（階段部）	実施済み	
6	310500	31_生産工程のエネルギー管理	輪転機の更新	実施済み	
7	310300	31_計測及び記録の管理	電力監視盤（総合監視室）の更新	実施済み	
8	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	システムセンター用空調機のパッケージ化	実施済み	
9	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷凍機の更新	実施済み	
10	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	生産系コンプレッサーの更新	実施済み	
11	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水2系統の一元化（2次ポンプの更新）	実施済み	
12	330200	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷却塔の更新	実施済み	
13	320200	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	外調機の更新	実施済み	
14	120300	12_運転管理及び効率管理	フリークーリングの設定変更	実施済み	
15	160100	16_昇降機の運転管理	荷物用エレベーターの更新	実施済み	
16					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
17					
18					
19					
20					
		(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当社では、日頃より環境配慮の積極的な取り組みを進めている。

エネルギー使用量については、当事業所が削減目標の達成度をチェックし、東京本社に対して報告している。当事業所内では、以下の3点を重視して地球温暖化対策に取り組み、ここ数年で大幅な成果が得られた。

1. 適切な空調管理

冷房・暖房の室温管理を徹底することで、無駄を排除した効率的な空調設備の運転を図った。

深夜時間帯の冷水精製を実施して、電力のピーク時間帯での省電力化を図った。

さらに無駄な吸排気を絞り通年で夏期程度の吸排気量での運用を実施して省エネを図った。

2. 設備の更新・効率化

当事業所では、竣工時の効率が悪かった冷凍機などを更新して温室効果ガスの発生を抑制することを図った。以下に更新履歴を記述する。

- ・2011年度に冷凍機を高効率型に更新するとともに、温水ボイラーを導入した。
- ・2014年度に冷水の空調機方式から、空冷パッケージ・エアコン方式の空調機を導入した。
- ・2016年度に老朽化した空調設備（外調機・冷凍機・冷却塔・冷水ポンプ類など）を更新。
- ・2017年度にフリークーリング設定変更を実施、荷物用エレベーターの更新。

この結果、20年以上経過した空調設備を更新、冷凍機は9台から4台に削減し、大幅な省エネを実現している。併せて2系統だった冷水システムを1系統に統合し、配水用ポンプ台数の削減、ポンプ容量を適正規模に変えた事で大幅な省エネとなった。冬期のフリークーリングは、専用の冷却塔を16年度に更新し、設定変更を17年度に実施したので、冷凍機の補助として有効に働いている。特に18年度は冬期の当初から効果を発揮した。

また、荷物用エレベーターは制御盤が老朽化していたので、最新の高効率のものに更新して消費電力を抑えている。

3. 事業所での省エネの取り組み

省エネ対策としてクールビズ及びウオームビズに積極的に取り組みを行い、社内でのポスター掲示などで啓蒙を進めた。

さらに夏期・冬期に省エネ委員会を開催して、館内部署における省エネ意識の共通認識を図った。

特に省エネ意識を高める為に、居室不在時の消灯や輪転機および発送機器類の印刷停止時の各エリアでの消灯などを実施している。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：特になし